

### 当科の概要

昭和46年9月透析室が開設され、昭和54年に診療科に昇格し、以来腎センター⇒腎臓内科と名称は変更なりましたが、一貫して慢性腎不全（保存期、透析期）IgA腎症を含む慢性糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、膠原病の一部、糖尿病性腎症などの疾患の治療に当たってきました。現在のスタッフは桜井哲男（部長）城下弘一（副部長）石田貴之（副医長）佐々木洋彰医師の4人で病棟、透析室、外来をおこなっています。



前列右より：桜井部長・城下副部長

後列右より：牧田啓史研修医・石田副医長・佐々木医師

### 当科の特徴

- 1) 透析室：以前は半分くらい通院透析の患者さんがいましたが、急性期を主とする当病院の方針を鑑み基本的には通院透析はしない方向です（古くからの透析導入で、引き続き当院でのフォローが必要な患者さんは数人います）。従って新しい患者さんの透析導入と合併症で当科及び他科各科に入院中の患者さんの透析が主体となります。合併症の患者さんは各科と協力し、症状改善後なるべく速やかに紹介元の医療機関に戻っていただけるよう心がけています。又導入患者さんには近くて通院しやすい透析施設をご紹介するようにしています。2年前より透析管理システムが導入され、指示などがより正確になったと思われます。
- 2) 入院病棟：以前は2病棟掛け持ちしていましたが、現状医師数での対応能力に若干無理があり現在は25床で、透析導入、腎生検、内シャント、ステロイド療法を中心に行っています。
- 3) 外来：地域連携センターと最も関わる部門です。基本的には紹介を受けた患者さんは診察させていただきますが、時間的にはお待たせするケースも多く申し訳なく思っています。



腎臓内科  
部長  
桜井 哲男

### 今後の地域連携センターとの関わり

当科の現状課題として、なんといっても、外来の時間的余裕が必要と思われます。腎機能に特段の異常所見がなく症状が安定した患者さんには早いうちからかかりつけ医を紹介するのがいいのかもしれませんが、5年も続けて診察させていただくといまさら言いにくいということもあります。腎臓疾患専門医として地域の先生からご紹介いただく患者さんを少しでも多く受け入れるため、将来は地域連携枠の設定も必要になるとおもわれますが、その前にかかりつけ医の紹介の推進が重要と思われます。



#### 平成22年度透析室実績

透 析 日：313日  
透 析 件 数：7787件  
（うち病棟への出張透析212件）  
1日平均24件

